

アイランドシティ分譲完了へ

埋め立て着手から28年



最終分譲区画に新設される健康をテーマにした各施設のイメージ(中央)

福岡市東区のアイランドシティ(IC)東側の居住区域「まちづくりエリア」(191・8杉)の最終分譲8区画の事業予定者が決まった。西側の港湾、物流施設が並ぶ「みなとづくりエリア」も最終区画の分譲先が5月に決まる予定。土地売却が難航し、一時人

工島はお荷物」とやゆされた時期もあったが、この10年間で急速に集積が進んだ。1994年の埋め立て着手から30年近く、ようやく約401杉の広さを誇るIC開発の全体像が見えてきた。

まちづくりエリアは2005年の「まちびらき」後、

住宅開発とともに学校や大型アリーナ、複合商業施設などが整備され、市立こども病院も移転。人口は3月末現在で約1万3400人。最終分譲の7区画は高層マンションや一戸建ての計約2千戸を建設予定で、最終的に人口1万8千人を目指す。

ICは当初、都心部へのアクセスの悪さなどがネックとなり、土地売却は進まず、ICへの鉄道延伸の構想も頓挫した。市は打開発策として、進出企業に対する「企業立地交付金」を拡充するなど対策を実施。最近の入札では倍率が9倍に上るなど、好調な売れ行きが続いていた。

今回の最終分譲区画の1区画は同市の健康食品通販やずやグループが、多目的スポーツ施設、食や健康の研究・実証実験施設などを集めるなど「健康」をテーマに拠点化を図る。バスケットボールや屋内テニスのコート、200坪の屋外トラックも設けるといふ。

高島宗一郎市長は「昔を思うと隔世の感がある。街が成熟し自然に欲しがって

もらえる土地になった」と話す。一方、開発全体の費用対効果の総括については、「全体の売却決定後に説明する」とした。

(小川俊一)